大正大礼における下賜建物の教育施設への転用過程

THE PROCESS OF CONVERTING BUILDINGS USED AT THE TAISHO ENTHRONEMENT CEREMONY TO EDUCATIONAL FACILITIES

原戸 喜代里*, 大場 修**
Kiyori HARATO and Osamu OBA

After the Taisho enthronement, the buildings used for the ceremony were granted to various places in Kyoto. This paper shows the analysis of how these buildings in educational facilities were converted. The time of Taisho enthronement was also the time of expanding and arranging an administration of school education. After the enthronement, dismantled buildings were granted to various educational institution such as elementary schools, junior high schools and high schools. When looking at the conversion of granted buildings we can see there was a different attitude of each institution toward the buildings. Their differences may have been caused by the each institution's reaction to Taisho enthronement.

Keywords : *The Taisho enthronement ceremony, Granted buildings, Kyoto Imperial Palace, Conversion,*

大正大礼, 下賜建物, 京都御所, 転用

1. はじめに

大正 4 (1916) 年の大正天皇の“御大礼”に際し、京都御苑や二條離宮には多数の建物が造営された。これらの建物は、大礼終了後に取解かれ、その多くが、京都府下の各所へ譲与され、移築された。

大正大礼の建物の下賜について調査したところ、その下賜先は宗教施設と教育施設に大別される。前稿^{注1)}では、宗教施設へ下賜された建物の転用過程について論述したが、本稿では、教育施設への転用過程の実態の解明を試みたい。

2. 教育施設における転用の過程

大正大礼終了後、儀式を執り行うために造営された仮設の建物のうち 76%は、宮内省より「建設地主管又ハ所在ノ官衙學校地方自治團體ニ無償譲與セラレ地方自治團體ニ賜ハリタルモノハ各團體ニ於テ直接公共ノ用ニ供シタルモノノ外地方文教ノ進歩發達ニ資スル為更ニ學校神社寺院等ニ分配」^{注2)}された。宮内省より直接建物を下賜された「建設地主管又ハ所在ノ官衙學校」とは、京都市、京都帝国大学、第三高等学校、京都高等工芸学校、京都高等蚕業学校で、そ

の他は「地方自治團體」即ち京都府に一旦下賜され、京都府から府下の 64 件へ分配された。こうして、大正大礼後に建物が下賜された団体は、合計して 69 件にのぼる^{注3)}。

下賜先の 69 件のうち、宗教施設へ転用されたものが 16 件、教育施設^{注4)}へと転用されたものは 31 件、郡町村 11 件、医療保護施設 6 件、その他団体 5 件となっており、大正大礼後、建物が下賜された団体のおよそ 45%が、教育施設として転用したこととなる。

表 1 は下賜先 69 団体のうち宗教施設を除いたものの一覧で、網掛け部分が教育施設へ下賜されたものである。

教育施設への下賜 31 件の内訳は、学校教育施設 27 件、通俗教育施設 4 件（博物館・陳列館 1 件、集会施設 3 件）となっており、学校へ下賜されたものが多い。さらに、学校へ下賜されたものの内訳を詳細に見ていくと、尋常小学校及び尋常高等小学校 10 件、中学校 2 件、高等女学校 7 件、高等学校 1 件、師範学校 1 件、専門及び大学 5 件、特殊学校 1 件となり、尋常小学校と高等女学校へ下賜されたものが目立つ。

宮内省から直接下賜されたものは、京都市及び市内の官営の学校

* 京都府立大学大学院生命環境科学研究科
博士後期課程・修士

** 京都府立大学大学院 教授・工博

Graduate Student, Graduate School of Kyoto Prefectural Univ., M. Eng.

Prof., Kyoto Prefectural Univ., Dr. Eng.

表1 大正大礼造営物下賜先のうち、宗教施設以外に下賜されたものの一覧

下賜先団体	使用儀式	造営場所	下賜建物名称	坪数	転 用 用 途	現存の有無	図面	仕様書	古写真
京都市	大饗	二条離宮	饗宴場	198	公会堂	×	×	×	○
京都帝國大學	即位礼 儀式無	京都御所内建春門外 京都御苑	第二朝集所、既舎	945	法文理醫工の各科の教室、馬術部 既舎	×	×	×	×
第三高等學校	即位礼 大饗	京都御所内建春門外 二条離宮	第二朝集所内車寄及び廊下 饗宴場附属調理所	818	講堂	×	×	×	○
京都高等工藝學校	大嘗祭	大宮御所	大嘗官付属朝集所	325	「朝集館」（貴賓室、網質試験室、製作 室、卒業生集会室）	×	×	×	○
京都高等職業學校	大饗	二条離宮	二條離宮東喫煙室	63	図書閲覧室	×	×	×	○
以下、京都府									
武徳會	大饗	二条離宮	大饗宴場附属建物	146	私立武術専門学校 武術道場「拱辰館」	×	×	×	×
京都府立第五中學校校友會	—	不明	不明	110	地歴特別教室及陳列室	×	×	×	×
同志社	即位礼	京都御所内建春門外	朝集所 1 棟	93	柔道擊剣の道場「講武館」	×	○	○	○
京都府教育會	即位礼 儀式無	京都御所内建春門外 京都御苑	第二朝集所着替所及び便所、 運転手詰所、湯沸所、廊下	183	教育会館	×	×	×	○
私立京都高等女子手藝學校	—	不明	不明	33	不明	×	×	×	×
私立京都淑女高等女學校	—	不明	不明	33	龍照館	×	×	×	○
私立精華高等女學校	大嘗祭	大宮御所	帷舎	78	講堂兼雨天体操場、鎮守社	×	×	×	○
私立菊花高等女學校	大嘗祭	大宮御所	帷舎	78	講堂「萬歳館」	×	×	×	×
私立高等家政女學校	—	不明	不明	41	講堂「大礼記念館」	×	×	×	○
私立平安高等女學校	儀式無	京都御苑	自動車庫庫、油庫	41	「大正記念館」	×	×	×	○
白川学園	—	—	—	29	園舎「金瑠館」	×	×	×	○
府立第五中學校	即位礼	京都御所内建春門外	第二朝集所着替所	109	図書館	×	×	×	×
京都市立待賢尋常小學校	大饗	賢尋常小學校	二條離宮 新聞記者詰所	—	幼稚園	×	×	×	×
京都市立錦林小學校	即位礼	京都御所内建春門外	第二朝集所付属食堂	63	教室	×	×	×	×
府立女子師範學校	—	—	—	104	—	—	—	—	—
愛宕郡雲ヶ畑村	大饗	二条離宮	饗宴場付属椅子卓置場及廊下	73	役場及び御猟場休憩所	×	×	×	×
愛宕郡	大饗	二条離宮	第一、第二喫煙室及 同大渡廊へ渡廊下	97	公会堂	×	×	×	×
愛宕郡上賀茂村	儀式無	京都御苑	既舎	73	—	—	—	—	—
愛宕郡松ヶ崎村	儀式無	京都御苑	馬車舎、既舎	63	松ヶ崎村尋常小學校（講堂兼雨天体操場）	×	○	○	×
愛宕郡修学院村	即位礼 儀式無	京都御所内建春門外 京都御苑	既舎、第二朝集所食堂及廊下	86	修学院尋常小學校（教室）	×	○	○	×
愛宕郡田中村	儀式無	京都御苑	蹄鉄工場、馬車舎、帷舎	79	田中尋常小學校 （雨天体操場、湯飲所兼物置）	×	×	×	×
葛野郡嵯峨村	儀式無	京都御苑	供奉員詰所及渡廊下	22	嵯峨野尋常小學校 （作法教室、廊下、便所）	×	○	×	×
葛野郡西院村	儀式無	京都御苑	小者詰所、既舎、帷舎	84	西院尋常小學校（教室）	×	×	×	×
葛野郡小野郷村	儀式無	京都御苑	新聞記者控所、既舎	71	—	×	—	—	—
相楽郡笠置村	儀式無	京都御苑	既舎、新聞記者控所、 同湯沸所及便所	94	笠置尋常小學校（教室）	×	○	×	×
綴喜郡田原村	即位礼 儀式無	大宮御所、京都御苑	大嘗官帷舎、馬車舎、 既舎、帷舎	—	—	—	—	—	—
船井郡	大饗	二条離宮	二条離宮衛兵舎、食堂	88	—	—	—	—	—
加佐郡	即位礼	京都御所内建春門外	調理場	—	郡立高等女學校	×	×	×	×
南桑田郡	大嘗祭	大宮御所	采女詰所	60	—	—	—	—	—
南桑田郡曾我部村	大嘗祭	大宮御所	食堂及び渡廊下	57	曾我部尋常小學校 （教室、裁縫室、作法室、音楽室）	×	○	×	×
南桑田郡篠村	大嘗祭 儀式無	大宮御所、京都御苑	帷舎、小者詰所	54	—	—	—	—	—
何鹿郡東八田村	儀式無	京都御苑	馬車舎、帷舎	26	—	—	—	—	—
何鹿郡以久田村	儀式無	京都御苑	馬車舎、帷舎	40	—	—	—	—	—
何鹿郡綾部町	儀式無	京都御苑	馬車舎、既舎、帷舎	99	綾部町立尋常高等小學校 （教室、廊下、物置）	×	○	○	×
紀伊郡堀内村	儀式無	京都御苑	馬車舎、帷舎	54	—	—	—	—	—
紀伊郡東九条村	儀式無	京都御苑	小者詰所	41	—	—	—	—	—
京都府（植物園）	即位礼	京都御所	掌典内掌典詰所、着替所、 湯沸所	301	植物園「大正記念館」	×	×	×	×
京都櫻橋財團	—	—	御大札御使用建物	105	事務所（会議室、事務室）	×	×	×	×
赤十字社京都支部	—	—	—	274	—	—	—	—	—
済世病院	儀式無	京都御苑	小者調理場	63	病室拡張（東寺内に建設）	×	×	×	×
篤志看護婦人會葛野分會	—	—	—	71	—	—	—	—	—
愛國婦人會京都支部	—	—	御大札御使用建物	82	事務所（二階建）	×	×	×	×
平安養育院	儀式無	京都御苑	自動車庫庫	41	院舎	×	×	×	×
平安徳義會 孤兒院	儀式無	京都御苑	運転手詰所、浴室及便所、 車夫人夫溜所	55	院舎	×	×	×	×
京都商業會議所	大嘗祭	大宮御所	帷舎	90	京都名産品陳列館	×	×	×	×
愛宕郡白川村在郷軍人會	—	—	—	30	—	—	—	—	—
愛宕郡八瀬村青年會	—	—	—	27	—	—	—	—	—
久世郡佐山村青年會	—	—	—	30	—	—	—	—	—

凡例 儀式無：儀式に直接使用しない建物

（『大正大禮京都府記事』『大礼記録』『大礼関係録』沿革史等により作成）

—：下賜の事実関係が不明、又は下賜先の団体の所在が不明なものを示す

(京都帝国大学、第三高等学校、京都高等工芸学校、京都高等蚕業学校)で、それらには、饗宴場や朝集所など大饗に関わる建物1棟分の取解材がそっくり下賜され、下賜坪数も京都高等蚕業学校以外は数百坪という大きなものとなっている。

一方、宮内省から一旦京都府へ下賜し、京都府が各下賜先へ分配したものについて表1を見ると、尋常小学校や高等女学校など一ヶ所の下賜先に対して、馬車舎や厩舎など事務方の建物の取解材が複数種とり混ぜて下賜され、下賜坪数についても100坪以下の比較的小さいものが多い。下賜坪数が100坪を超えるものも見られるが、これらには第二朝集所や饗宴場に付属する建物が下賜されており、京都府が分配したものについても、下賜坪数が多いものについては、宮内省から直接下賜されたものに準じた下賜が行われている。

大正4年2月、江木内閣書記官長が京都帝国大学総長を始めとする各下賜先代表に宛てた書簡では「過日協議ニ及ヒタル大禮建物保管轉換ノ件ニ付其用途目的ノ範圍其他詳細ノコトヲ明記シ公文ヲ以テ照會ヲ得タシ」^{注5)}と、下賜を行う宮内省側は、下賜先にあらかじめ転用建物の詳細を報告させていたことがわかる。宮内省が直接行った高等教育機関への下賜については、転用建物の用途が考慮された上で、饗宴場や朝集所など大饗に関わる建物が選ばれ、それらの建物1棟分の取解材が下賜された。

京都府が下賜先を査定し分配したもののうち、下賜坪数の小さいものについては、儀式とは直接関わらない厩舎や車庫、詰所等の取解材を複数種混在させて下賜されたことから、下賜する側は、転用用途を考慮し、下賜材が建築材料として使用されることを予め意識して下賜建物を選択していたのではないかと考えられる。

さらに、これら各教育施設における下賜建物の転用用途を同表より確認する。尋常小学校では、教室に転用されている事例が多く、その他の学校では、講堂へ転用されたものが多い。通俗教育施設では、公会堂や植物園内施設に転用されている。

以上、表1より教育施設における下賜過程を検討してきたが、尋常小学校では、儀式に直接関わりのない複数の下賜建物の取解材が一つの学校に下賜され、それらは主に教室に転用されていた。尋常小学校での転用の過程からは、大礼の建物という特別な建物を取り扱う意識は見いだせず、下賜建物の取解材は、むしろ建築材料として受取られ、通常の建物の移転、転用の過程に類似していると想像できる。

また、高等女学校では、幄舎の一部や車庫、調理所等が下賜されるが、これらは講堂として転用されている。下賜建物の取解材は、尋常小学校と同様に建築材料として受取られ、元の建物とは異なる全く新たな建物を作り出していると思われる。しかしながら、転用された建物には大礼に関わる名前をつけ(表1中「転用用途及び施設名」欄参照)、建物の記念性を主張している点は、尋常小学校の転用過程と異なっている。

大学や専門学校などその他の学校は、朝集所や二條離宮の饗宴場の附属建物が講堂等集会のための施設に転用されている。通俗教育施設についても同様である。朝集所や饗宴場の附属建物等、集会のための施設が、講堂や公会堂など集会施設へ転用されていることから、大礼当初の建物の形式を踏襲しつつ転用されたことも考え得る。

教育施設に転用された建物で現存するものは見つからなかったが、次章では、実際の転用過程を資料から確認していきたい。

3. 下賜建物の転用事例

3-1. 尋常小学校

尋常小学校では、明治33年の小学校令改正により、年限四カ年制と授業料が廃止されたため、就学率が、著しく向上する。さらに、同41年には義務教育が6ケ年となり、尋常小学校における児童数が増加した。大正初期は、小学校教育が普及し、拡充された時期であるといえる。

・愛宕郡修学院村立尋常小学校

愛宕郡修学院村には、第二朝集所食堂54坪、同食堂廊下2坪、厩舎の内30坪の合計86坪が下賜された。修学院村では、これらの下賜材を村立尋常小学校の教室に充当することを議会で決議、大正5年10月11日付で、愛宕郡長鷺野米太郎が、京都府知事木内重四郎宛に、小学校校舎増築の申請の文書を提出している。

これに依ると「本年八教室及其他ヲ新築シテ漸ク現在ノ児童ヲ收容シ居候ヘ共明年度ハ学齡児童増加ノ見込ニテ教室増築ノ必要有之幸ヒ御大禮御用材御下賜ヲ得タルヲ以テ増築ノ議ヲ決シ」^{注6)}と、大礼建物の取解材の下賜を契機に、児童増加に依る教室不足を解消すべく教室の増築を決定したとある。

この増築工事の見積書によると、柱や陸梁、合掌、垂木、野地板、軒先裏板などの屋根廻りの部材、土台、大引、根太、床板等の床廻り、内外腰張りや胴縁等壁廻り、敷居鴨居、窓硝子戸、入口戸等の建具廻り、箱金物、合掌用ボルト、丹尺金物、釘カクシ等金物類、柱石及び束石等の備考欄に「但し古材料使用ニ付無料」と大礼の下賜材が使用されていることがわかる。この見積書から、新教室の増築には、主に大礼の下賜材が使用され、その不足部分を新材で補っている様子が見て取れる。

京都府知事に宛てた行政文書からは、大正大礼の建物の下賜を記念するというような文言は見いだせず、大礼の下賜材は、教室建築のための材料として活用されていた。

・愛宕郡田中村立尋常小学校

田中村立尋常小学校には、京都御苑内の蹄鉄工場、馬車舎及び幄舎の一部の合計79坪が下賜されている。

使用用途を屋内体操場としている愛宕郡田中村では、大正5年9月14日付、愛宕郡長から京都府知事宛の校舎増築許可申請書に、「本郡田中尋常小学校ハ昨年教室増築ノ際従来ノ屋内体操場ヲ取毀チシヨリ児童教養上不便不尠ノ為ニ本年度ニ於テ之ガ建設ヲ計畫セル際御大禮建物ノ下賜ヲ得テ」^{注7)}と記されており、児童増加のために屋内体操場をつぶして教室を確保したため、下賜された建物は雨天体操場及び湯呑所兼物置所に充当された。

・何鹿郡綾部町立尋常高等小学校

綾部町立尋常高等小学校には、馬車舎、厩舎及び幄舎の一部合計99坪が下賜され、教室、物置、廊下に転用された。

大正6年3月の綾部町長から京都府知事宛の文書によれば「小學児童ハ累年増加ノ傾向ヲ示シ學級数増加ノ必要ヲ生シ現在ノ校舎ニテハ到底收容スルヲ能ハズ教育上支障不尠ヲ以テ教室増築計畫中ノ処今回忝クモ御大禮用建物ノ一部下賜相成タルヲ以テ之レカ材料ニ補充ヲナシ大正五年度ニ於テ教室並ニ理科室廊下物置ヲ増築シ」^{注8)}とある。綾部町立尋常高等小学校に於いても、当時の急激な児童増加による教室不足を解消するために、大正大礼の建物の下賜材が活用された。

3-2. 高等女学校

初等教育の普及がなされると中等教育整備への要求が高まってくる。従来中学校令に組み込まれていた高等女学校についても、明治32年には高等女学校令として新たに規定された。「明治37、8年戦役以降の女子教育の発展はめざましいものがあり、高等女学校の学校数の増加および生徒数の増加の上にもこれがあらわれている。実科高等女学校は、高等女学校令が改正された翌年の明治44年には49校が新設され、生徒数は4,772人であったが、その後急速に増加し、5年後の大正5年には、校数は3倍の149校に、生徒数においては4倍強の21,198人に達して」^{注9)}いた。

表1の下賜先の女学校の設立時期を見てみると、私立平安高等女学校（キリスト教系）は明治27年、私立京都淑女高等女学校（真宗東本願寺派）は明治34年、私立京都高等女子手芸学校は明治35年、私立菊花高等女学校は明治36年、私立高等家政女学校（浄土宗知恩院派）は明治37年、精華高等女学校（神道系）は明治38年、と明治末期に相次いで設置されている。この時期、京都府が設置した府立・市立学校のみでは、府民の要求は満たされず、私立学校が数多く設置された。その中でも仏教各派の総本山・大本山が多い京都では、仏教各派の経営する中学校、女学校の設立が相次いだ。

大正大札の举行された大正初期は、高等女学校においても、学内の整備、拡張が求められてた時期であると考えられる。

・私立平安高等女学校

私立平安高等女学校には、自動車庫（80坪）平安養育園と折半40坪、同洗場床板張30坪、油庫1棟1.5坪が下賜される。大典記念事業として、生徒の作法や裁縫、料理、茶道の稽古、同窓会の会合等のための建物が建てられ「大正記念館」と命名された。

京都御苑に造営された自動車庫及び油庫の構造形式は『大札記録巻百五』によると「自動車庫及び同洗場 柱掘建屋根切妻造柿葺側及薨羽目板張柱杉材貫指、組小屋松杉材西洋合掌組杉材板葺とあり、油庫については、柱杉材掘建屋根招造亜鉛引浪形鐵板葺 側外部松羽目板内部亜鉛引鐵板張床力」^{注10)}となっている。

写真1 大正記念館^{注11)}

写真2 自動車庫^{注12)}
(国立公文書館所蔵)

大正記念館の形式は、写真1を見ると、屋根は入母屋造り瓦葺き、外壁は漆喰、腰板が張られている。『大札記録』に記されている構造形式や大札当時の写真と比較してみると、大正記念館は大札当初の建物の形式を踏襲したものではなく、大札の下賜材を活用し、生徒の稽古室や集会のための施設として建築されたものと考えるのが妥当であろう。しかしながら、転用された建物には「大正記念館」という名前がつけられ、大札を記念しようとした様子が窺える。

・私立家政高等女学校

明治37年に因幡薬師内（下京区烏丸松原下ル）仮校舎に設立され

た家政高等女学校は、大正初めに在校生が200余名となり校舎が狭隘となる。大正5（1916）年、校舎を大雲院山内（下京区寺町四条下ル）に移転、校舎も新築した。

沿革史では、「5月25日には、大正天皇御即位大典時の建物の一部を拝領、これを移築して「御大禮記念館」とし、費用は卒業生の寄付のみによってまかなわれた。しかし、何分にも資金が充分でないため、仮校舎の資材のうち使用できるものはことごとく移して利用する計画であったので、工事の進み方と共に使用中の校舎が次々と壊されていく状況で、その間の不自由や混乱は察するに余りあるものであった。」^{注13)}と当時、経済的に困窮していた様子が窺え、そのような状況下における下賜は、建築材料を無償で得られる好機であったといえる。しかしながら、建築した建物に「御大禮記念館」と命名し、大札の記念性を保持しようとした点は尋常小学校と異なっている。

・私立精華高等女学校

私立精華高等女学校は、明治38（1905）年皇典講究所により設立された神道系の女学校である。

同校の沿革史によると、大正5年6月に大札建物（詳細は不明）の一部が下賜され、大札記念建造物として記念講堂兼雨天体操場と本館（校長・事務・作法室）が建設された。さらに、大正8年4月大嘗祭に使用された幄舎が下賜される。この下賜を記念して鎮守社が建設され、学園一同の精神的支柱として厚く尊崇された。

精華高等女学校は、神道系の学校であったため、記念建造物の他にも大札記念事業として鴨川堤に柳樹を植えたり、校庭の隅に伊勢神宮遥拝所を設ける等、盛大に大札を記念しようとした。

写真3 本館^{注14)}

写真4 鎮守社^{注15)}

3-3. 大学及び専門学校、その他

・第三高等学校

第三高等学校では、大正5年3月に「母校の懇願に對し御大典用臨時造営物中、第二朝集所御車寄及び二條離宮内饗宴場附属調理所下賜の御沙汰に接し、直に之を校内に移轉し、且つ右朝集所は、略ぼ原形のまま併せて之を移築することとなりしのみならず尚右調理所は母校より建築材料として全部之を交附せらるることと関係者のなりしたれば両者相俟つて、益々大典記念の趣旨を深くするに至れ

写真5 第二朝集所^{注16)}
(京都府立総合資料館所蔵)

写真6 二條離宮内
饗宴場附属調理所^{注17)}

写真7 尚賢館^{注18)}

写真8 尚賢館内部^{注19)}

写真9 新徳館^{注20)}

写真10 新徳館内部^{注21)}

(写真7、8、9、10 京都大学文書館所蔵)

る」^{注22)}と、第二朝集所の一部を移築し、「略ほ原形のまま」建てられた「尚賢館」と、饗宴場附属調理所の取解材を建築材料として使用した武田五一による講堂「新徳館」が建てられた。

・同志社大学

同志社大学には、第二朝集所の内の93坪が下賜され、道場として転用されている。大正5年度の同志社社長報告のなかで「大正4年の御大典に際し御所内に設置せられたる朝集所の内1棟を本社に下賜せられたるを以て新たに材料を加へ地を運動場の西北部にトシ大学及中学々生の為めに柔道撃剣の道場を建築することとせしが大正5年11月を以て竣工したるに付講武館と命名す(中略)斯くて多年其欠乏を感じたる道場を得たるのみならず併せて曠古の盛典を記念するを得るは吾等の喜悅に堪へざる所なり」^{注23)}と当時の様子が語られている。

写真11 講武館^{注25)}

写真12 講武館内部^{注26)}

(写真11、12 同志社大学社史センター所蔵)

図1 講武館平面図 (昭和30年移築)

図2 第二朝集所平面図^{注27)} (宮内庁書陵部所蔵)

この道場の様子を、京都日出新聞では、「同志社大学にては昨秋大典朝集所建物一部を下賜せられたるを以て大典記念館として構内に移築せる(中略)記念館の広さは130坪洋館立ち並ぶ間に御所造りの原型の面影を存し柔道及び剣術の道場に宛つるべく竣工の上は大学及普通学校の柔道部剣道部員は放課後大に奮闘練習することになり(下線筆者)」^{注24)}と伝えている。

図1は講武館が昭和30年に移築された時の平面図である。この図では内部が間仕切られ、部室として使用されているが、講武館の写真12を見ると、柔道場として使用されており、建築当初には、内部の間仕切りはなかったと見られる。

しかし建物の規模は当初のままであり、図2の第二朝集所の平面図と比較すると、講武館の柱間はほとんど元のままで建てられていることがわかる。また、その規模から、3棟ある朝集所のうちの約0.5棟を下賜されたと考えられる。

大礼当初の写真11と朝集所の写真5とを比較してみると、玄関の屋根は入母屋とし瓦棟に獅子口、妻飾りは懸魚、柱間は白漆喰塗りで長押が回されガラス窓が嵌められるなど、当時のものをそのまま建てたとはいえないが、「御所造りの原型」を感じさせる意匠としている。

同志社大学では、大礼の下賜材で建築した道場を、大礼当時「御所造りの原型の面影」に似せた形で建築し、大礼の記念性を保持しようとする指向が窺えた。

・京都府教育会

京都府教育会には「第二朝集所ノ内87.47坪、同附属便所ノ内10坪、自動車庫内運転手詰所、同湯沸所、同廊下、第二朝集所衣換所、同廊下ノ内8.96坪、廊下ノ一個所3.735坪」^{注28)}以上、合計約184坪が下賜されている。

当時の京都府教育会は、京都府構内にあり「借家にして事務執行上の不便尠からざりしと雖も本會の本領たる事業の施設規畫の更に急務成ものあり為に會館建設の資を蓄ふる餘財を有するに至らず、

日むを得ず不便を忍びつつ以て今日に及べり」^{注29)}という状況であったところ、「大禮建築物下賜の恩命に浴したりき大禮記念建築物として最も適したるものなるが故に理事者に於いては此の機を逸せず年来の素望たりし会館建設の議を決するに至れり」^{注30)}と大礼の建物下賜が、教育会館建設と事務所移転の後押しをすることとなる。

図3 教育会館側面図^{注31)}

教育会館は、賀茂川沿いに建設されるが「背景として東山連峰を負ふ景勝の境を得たるを以てこの純京都式の風物景象との調和を失せざる建築に多大の考慮を要す。(中略)其の設計を内匠頭馬場三郎氏に依頼し内匠頭は更にこれを宮内省技師中村誠氏に命ぜられて日本固有の破風造りによる建築法による設計」^{注32)}で、木造二階建て総建坪120坪の会館に、車置4坪、地方会員のための無料宿泊所20坪、その他附属建物24坪を加えた合計160坪の建物が建てられた。

京都府教育会は、朝集所等数種の下賜建物の取解材を用いて建築された新たな教育会館の設計を、京都府の技師ではなく、宮内省内匠頭に依頼した。これにより、まさに「大禮記念建築物として最も適したるもの」を建てようとしたのであろう。

4. むすび

以上、大正大礼の際に下賜された建物が、教育施設へ転用される過程を検討した。

大正大礼の挙行された時期は、学校教育制度が整備され、初等教育が普及し、それに伴い中等教育への要求が高まった。大礼建物は、下賜された建物の多くは学校施設、特に尋常小学校と高等女学校の施設へと転用された。

昭和大礼の下賜建物の転用事例で比較的多く見られた社会教育のための諸施設は^{注33)}、漸く通俗教育に目を向けられ始めたこの大正期にあつてはまだ少ない。

下賜する側については、下賜建物が転用後どのように使用されるのかを予め意識し、転用後の用途や規模に応じた建物を下賜したと考えられる。

学校の施設として転用された実態をそれぞれ探っていくと、尋常小学校では、下賜建物を建築部材として取扱い、大礼建物の下賜を記念しようとする様子は見いだせなかった。高等女学校においては、下賜された建物は建築部材として活用されたものの、新たに建てられた建物に大礼を記念する名前をつけることで、大礼建物の下賜を記念しようとしていた。

これは尋常小学校や高等女学校に下賜された建物の取解材を、下賜する側は、通常の建築材料として使用可能なものと認識し、拝受

した尋常小学校でも通常の建築材料として認識していたといえる。しかしながら同じ拝受者である高等女学校では、建築材料であつてもそれが大礼を記念するものであると認識していた。

宮内省から直接下賜された官営学校では「略ほ原形のまま併せて之を移築」し大礼を記念しようとする様子も窺えた。

このように、大正大礼の下賜建物を拝受した学校における転用の状況には、大礼建物下賜の記念性に対する隔たりがみられた。

大正大礼の下賜では、大礼の下賜建物に特別な意味を付与するかどうかの認識が、初等教育機関、中等教育機関、高等教育機関で異なっていたといえる。

大正大礼の13年後に挙行された昭和大礼では、各教育機関は一律に大礼の下賜建物に対し特別な意味を付与し、たとえ柱1本にでも特別な意味を見出し記念保存のために下賜を願い出るといような小学校の事例^{注34)}も見られた。このように、大礼の下賜建物に対する認識が13年という短期間に大きく変わったのは、御真影の下賜の普及^{注35)}や国民に対し天皇尊崇の観念の浸透を目的とした社会教育の徹底が、大正大礼の後から展開されてくること^{注36)}と関わってくるのではないかと考えられる。

下賜建物に対するこのような認識の格差が、下賜建物の転用実態の相違を生んだといえよう。

参考文献

- 1) 京都市:京都の歴史8 古都の近代,学藝書林,1975.3.20
- 2) 山本信良・今野敏彦:大正・昭和教育の天皇制イデオロギー〔I〕,新泉社,1976.3.1
- 3) 京都府教育会:京都教育 第239号-第307号,1912.5.10-1918.1.10
- 4) 京都市教育会:京都教育時報 第42号-第115号,1911.11.15-1915.12.27
- 5) 歴史的建造物保存調査専門委員会:京都大学建築八十年のあゆみ・京都大学歴史的建造物調査報告書,1977.6.1
- 6) 財)千里文化財団:京都の仏教史,平河出版社,1992.2.1

注

- 注1) 拙稿「大正大礼における下賜建物の宗教施設への転用過程」日本建築学会計画系論文集 第75巻 第658号,2010.12
- 注2) 『大禮記録 第106巻 建物処分並残務処理』国立公文書館所蔵
- 注3) 前掲1) 参照
- 注4) ここでいう教育施設とは、大正大礼の挙行された大正初期に、文部省が管轄した教育施設、学校教育施設及び通俗教育施設をさす。
- 注5) 『公文類聚第卅九編 大正四年 巻一ノ五』国立公文書館所蔵
- 注6) 京都府庁文書『大正5年 設備 学務課』京都府立総合資料館所蔵
- 注7) 前掲6)
- 注8) 京都府庁文書『大正6年 設備 学務課』京都府立総合資料館所蔵
- 注9) 文部省『学制八十年史』p.186,1954
- 注10) 『大禮記録 第105巻』国立公文書館所蔵
- 注11) 『平安女学院100年のあゆみ』1959.3
- 注12) 『大正大礼の記録写真』国立公文書館所蔵
- 注13) 『京都文教学園の百年』p.47,2004.11.3
- 注14) 精華百年史編纂委員会『精華百年史』2005.11.9
- 注15) 前掲書14)
- 注16) 『大礼関係写真』京都府立総合資料館所蔵
- 注17) 『二條離宮大饗宴場建築写真帖』奥付なし
- 注18) 『第三高等学校創立満50年大典記念館落成記』1918.5
- 注19) 前掲書18)
- 注20) 前掲書18)
- 注21) 前掲書18)
- 注22) 前掲書18), p.103,
- 注23) 学校法人同志社『同志社百年史 資料編1』p.905,1979.11.29
- 注24) 『京都日出新聞 大正5年11月11日 夕刊』同志社大学所蔵
- 注25) 『大正大礼関係写真』同志社大学社史センター所蔵

注 26)『同志社大学卒業アルバム』 同志社大学社史センター所蔵

注 27)大礼関係録 大正,宮内序書陵部所蔵

注 28)京都府教育会『京都府教育会 50 年史』p. 50, 1930. 11. 3

注 29)京都府教育会会報『京都教育 292 号』p. 25, 1916. 10. 10

注 30)前掲書 29) , p. 25

注 31)前掲書 28) , pp. 50-51

注 32)前掲書 29) , p. 26

注 33)教育学者の下村壽一は昭和初期に編集された『教育科学』中の「教育行政」において社会教育施設を「一般民衆の為の修養手段としての施設」であるとし「一、書館、巡回文庫、通信教授以圖。二、博物館、動物園、植物園、其他の観覧施設。三、講演會、講習會、成人講座。四、活動映畫、ラヂオ。五、各種教化團體。六、男女青年團、少年少女團、隣保館。」が社会教育施設の主なものであるとしている。(岩波茂雄『岩波講座 教育科学Ⅴ 教育の制度』p. 77, 岩波書店, 1931) 昭和大礼では、社会教育の推進に伴い、成人教育の講演会、公民教育講座等が学校で開催されたため、下賜建物は、講堂や図書館へ転用される事例が目立った。(拙稿「昭和大礼における下賜建物の教育施設へ転用過程」日本建築学会計画系論文集第 650 号, pp. 915-920, 2010. 4

参照)

注 34) 拙稿「昭和大礼における下賜建物の教育施設への転用過程」日本建築学会計画系論文集 第 75 巻 第 658 号, pp. 915-920, 2010. 4 参照

注 35) 御真影の下賜について籠谷氏は、「御真影は明治 15 年頃から主要な文部省直轄学校へ、明治 20 年以降、主要な尋常師範学校や尋常中学校といった府県立学校へ下賜された。高等小学校への下賜は明治 22 年末から同 25 年末にかけて行われ、尋常小学校へ普及するのは、この後のことである。尋常小学校への下賜の状況は府県によってばらつきがあり、京都府の尋常小学校では、大正 4 年で 11.4%、昭和 6 年になってようやく 60%を超えるようになる。」と述べている。(籠谷次郎『近代日本における教育と国家の思想』pp. 89-92, 阿咩社, 1994. 7. 2)

注 36) 大正 10 年、通俗教育が“社会教育”と改称され、同 13 年には、文部省普通学務局内に、社会教育課が設置される。昭和大礼の举行された昭和 3 年は、家庭学校以外で行われる教育的活動である社会教育が、組織化の道程に入りつつある時期であった。

(2010年10月10日原稿受理, 2011年3月24日採用決定)